

海よ光れ！3・11被災者を励ました学校新聞

「海よ光れ！」を読んで

3年 R・Sさん

母にすすめられてこの本を読みました。表紙がしぶくて、さい後まで読む自信がありませんでしたが引きこまれて一気に読んでしまいました。

この本には東日本大しんさいでつなみのひがいを受けた小学生たちがみんなで助け合い、ひさいした人たちをゆうきつけるために学校新聞を作って配ったことが書かれています。

心にのこった場面はいくつもあるのですが、一番は、子どもたちがみんなのためにできることを一生けん命考えて行動したことです。トイシそつじ、水くみ、かたもみ、そして学校新聞作りです。ささえこくれる人たちに、感しやを伝えたい。全国からとどいたはげましの手紙をみんなに見せてよろこばせたい。負けずになぼっている自分たちのすがたも見てもらいたい。これらの想いにとても感動しました。しかも肉親を亡くしたり住む所も大切な物もなくなりましたでもそればかりです。おそらく私だったら、お気に入りの物をなくしただけでもそればかり考えてしまってもできなくなってしまうと思います。でも、もし自分がさいがいなどにあつたらどうするべきか私なりに一生けん命考えてみました。ヒントになったのは、本の中にあつた言葉です。「くやしいことを数えるより、よいことに目を向ける。」これはきつと、さいがい時だけではなく、日じよう生活にも生かせるのではないかと思います。たとえば、じゆくのテストで思うような点数が取れなかつた時は、できたところを、もっと自分で自分をほめる。わからないところに気づけたと、前向きに考える。そして、くやしさをバネに次はもっとがんばろうとど力する。などです。

友だちとうまくいかない時は、相手のいやな所ではなく、よい所をさがしてみる。相手の気持ちを考えて行動できるようにする。などです。

それから、一番目に心にのこつたことは、大沢の人たちがしんさいの前からとても仲がよかつたことです。だからしんさいが起きてからも自ぜんに助け合いができたのだと思います。私は同じマンションの中にだれが住んでいるかほとんど知りません。まずは、会つた時に、自分からあいさつができるように心がけたいと思ひました。

さい後に、毎日おふるに入れること、ごはんが食べられること、勉強できること、家族と一緒にいられることを当たり前だと思わずに一つ一つに感しやの気持ちを保持つていきたいと思ひます。